

システムご担当者様必見！

# こんなプロジェクトは失敗する！ 基幹システム導入方法論



総合力で勝負する

# プロジェクトを確実に成功に導く 導入方法論

## 1. なぜプロジェクトが計画通り進まないのか

弊社は現在複数のmcframe導入プロジェクトを並行推進しております。過去からの累計で**40社以上**もの企業へmcframeを導入をさせて頂きましたが、必ずしも全てのプロジェクトが計画通りに推進できた訳ではございません。弊社のさまざまな導入実績/失敗事例を紐解き、過去プロジェクトの反省から方法論を確立させて頂きました。以下に**<よく上げられるプロジェクト失敗の4大要因>**を挙げましたが、こういった失敗に陥らないための弊社独自のポイントを方法論にまとめました。各フェーズにおいて、何を準備し、何に注意し、どのように進める事でプロジェクトを遅延、停滞、中断させることなく**成功に導びけるのか**。経営層も現場の方も喜んでいただける基幹システムを作り上げることができるのか。本コンテンツが、お客様の大切な基幹システム再構築のお役に立てますと幸いです。

### <よく上げられるプロジェクト失敗の4大要因>

① プロジェクト開始の準備不足

② パッケージ導入プロジェクトの意識不足

③ 部分最適/コスト増大

④ スケジュール遅延

# <プロジェクト中に発生する課題の具体例>

## 「プロジェクト開始準備」での課題

- ・要件のまとめ方が不十分、現場が非協力的、結局現行踏襲の要件になっている先にパッケージを選べば何とかなるのではないか？  
前提条件が整っていないのに見切り発車する
  - ①プロジェクト目的は何か
  - ②パッケージ標準適用の意志は醸成されているか
  - ③機能要件は明確になっているか
  - ④プロジェクト体制は明確になっているか

## 【要件定義/基本設計】で起こりうる課題

- ・カスタマイズ要件が多発し、規模が膨らむ
- ・カスタマイズ多発により、本来のパッケージの機能を活かさない
- ・各工場で要求が異なり、全社要件として纏めるのに時間を要す
- ・全社パッケージ導入プロジェクトとしてのガバナンスが効かず、意見が発散
- ・現場キーパーソンの従事率不足により、決定事項が覆る
- ・操作運用イメージが出来ておらず、後工程で仕様変更が発生する

## お客様テストフェーズで計画通りに進まない

- ・マスタ構造の理解/設定、データ移行が思う様に進まず遅延する
- ・テストシナリオ、チェックリストの品質が低い
- ・お客様のテスト消化や習熟が進まず遅延する
- ・周辺システムの開発が遅延し、インターフェーステストが実施出来ない



上記はいくつかの事例ですが、実際にこのような事態に苦慮されているお客様は非常に多い印象です。  
次ページ以降では、弊社がこれまでのプロジェクトで確立してきた方法論の一端をご紹介します。

Go To Next Page!

# 2. 導入方法論とは(プロジェクト成功の秘訣)

「mcfame導入方法論」とは、mcfameの導入に際して、各工程での**作業内容や手順、まとめるべき資料を規定**しているものです。  
mcfame導入方法論は5つのフェーズと13個のプロセスで構成されています。

フェーズ	準備フェーズ Inception (INC)	要件定義フェーズ Elaboration (ELB)	基本設計フェーズ Architecture (ARC)	開発フェーズ Development (DEV)	テストフェーズ Test (TST)	
プロセス	プロジェクト管理 PM					
	構想策定 CP	要件定義 RP	基本設計 BS	詳細設計 DS	総合テスト ST	運用テスト OT
				コーディング P		
				組合テスト CT		
				非機能設計 SA		
			開発準備 PD	構成管理 VD		
パッケージ導入支援 (マスタ登録・移行) IS						

mcfame導入方法論プロセス体系図

各プロセスではプロジェクトを推進する為に、必要な作業手順やドキュメントがあります。導入方法論をもとにプロジェクトを推進することで、弊社が過去に導入し確立してきた作業手順やドキュメント、失敗しないプロジェクトの進め方（導入方法論）により、プロジェクトを成功に導きます。

**【プロセス構成図】**  
各フェーズにおけるプロセスの構成をあらわす

**【WBS】**  
作業の詳細化とインプットとアウトプットの結びつける

**【アクティビティフロー】**  
作業の順序性と担当者成果物の関係をあらわす

**【ドキュメントサンプル】**  
各種規定ドキュメント

mcfame導入方法論ドキュメント集

日立ソリューションズの導入方法論には、プロジェクトの成功に向けたさまざまな施策を盛り込んでいます。

# <各導入フェーズにおける特に重要なポイント>

## 【プロジェクト開始準備】

- ・プロジェクトの目的を明確にします。  
現行踏襲や過度なカスタマイズに陥らないためにプロジェクトの目的を  
しっかり設定します。
- ・スコープを明確にします。  
業務範囲や機能要件を明確にし、要件定義で漏れなくパッケージとのFIT & GAPを  
行う準備をします。
- ・プロジェクト体制を確立します。  
社内ガバナンス、決定権限、ITリテラシー、トップダウン意思決定など、  
さまざまな場面で適切な役割をもったプロジェクトメンバが必要です。  
最適なプロジェクト体制の確立を支援します。

## 【要件定義/基本設計】

- ・要件定義で発生した要件は、定期的に要件棚卸を行います。  
当初要件との増減を明確にし、プロジェクト目的に合った要件か？  
費用対効果のある要件か？  
などを確認し必要に応じて要件削減会議を実施することで、規模の増加を防止します。
- ・過度のカスタマイズや現行踏襲に陥ることのないようリードします。  
要件の本質を深掘りし、運用回避案や標準機能での代替案を提案します。
- ・お客様と一緒に業務パターン一覧を作成し要件漏れを防止します。  
また、要件定義終盤にウォークスルーを実施し、要件に漏れがないかを確認します。
- ・お客様のデータを登録したプロトタイプ環境を作成し、  
パッケージの標準機能をご説明しながら検討を進めます。  
また、お客様がいつでも使用出来るmcframe環境をご用意し、早い段階で  
運用イメージを持って頂き、要件漏れによる後戻り作業発生の防止を図ります。

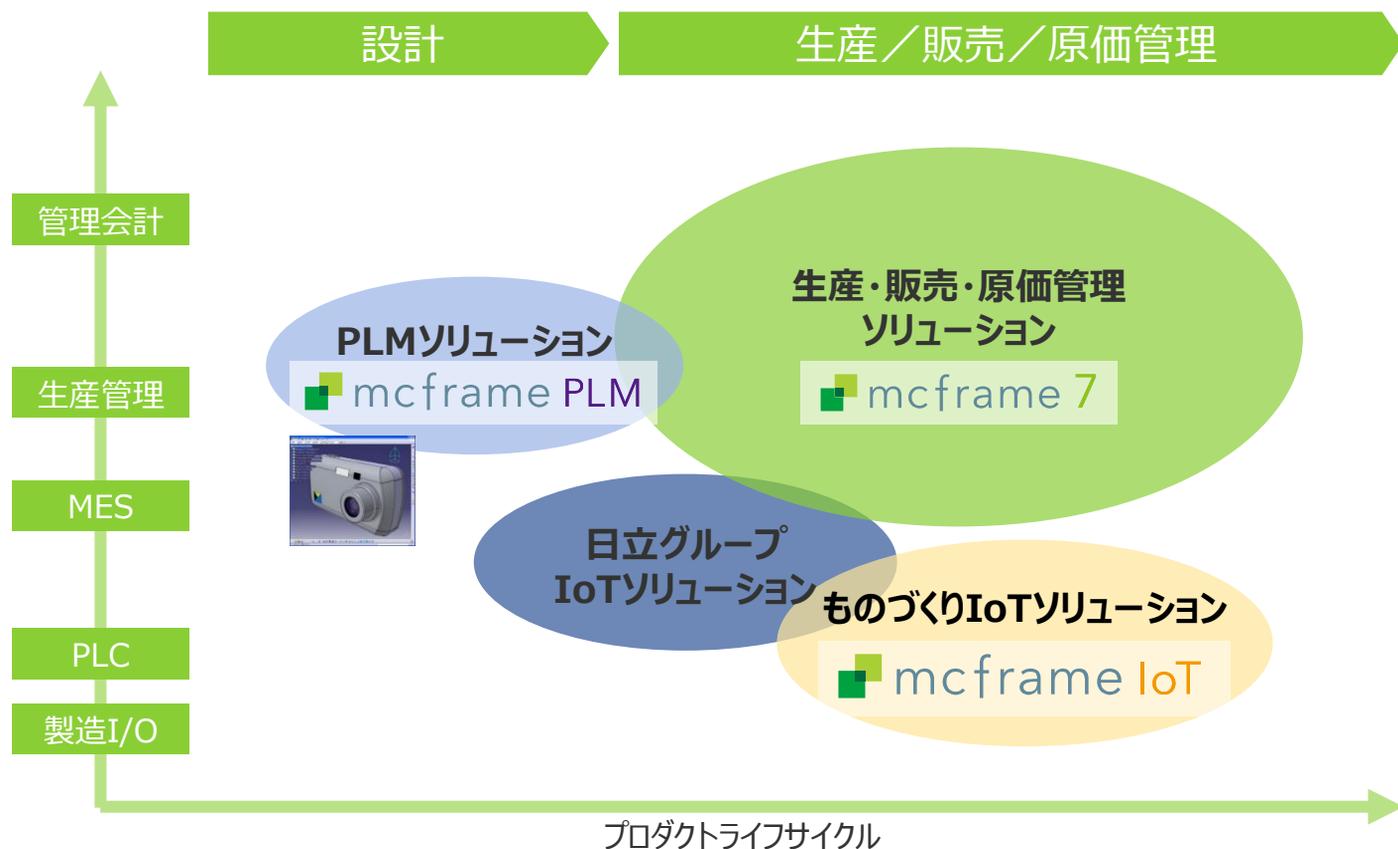
## 【マスタ登録・移行/総合・運用テスト】

- ・お客様担当の作業についても、弊社から必要なタスクを記載したサンプル  
WBSをご提供します。過去のプロジェクトの事例より、お客様が実施すべき  
タスクと工数をもとに計画的なプロジェクト推進を促します。



### 3. mcframeと周辺ソリューション、 新技術を用いて、お客様の課題解決と成長を 牽引いたします！

これまでご説明させていただきました基幹システムの導入方法論を適用しながら、弊社では、mcframeの導入プロジェクトを成功に導いていきます。その上で、段階的に周辺ソリューションである「生産計画」「PLM」「IoT」へ拡張させることで、mcframeを中心に**全社最適化システム**を実現します。日立ソリューションズでは、mcframeの他に、約80を超えるソリューション群を取り扱っており、製造業における受注から設計、製造、調達、保守サービスに至るまで、全社課題の解決に向けた、幅広いご提案が可能です。DX（デジタルトランスフォーメーション）の実現に向け、トータルソリューションSierとしての総合力をもって**お客様の未来をご支援いたします**。



弊社の導入方法論×豊富な知識×総合力  
でプロジェクトを成功へ導きます！

© 株式会社 日立ソリューションズ  
www.hitachi-solutions.co.jp

本リーフレット掲載商品・サービスの詳細情報  
Email : mcf-sales@hitachi-solutions.com  
HP : <https://www.hitachi-solutions.co.jp/mcframe/>

※本カタログ中の会社名、商品名は各社の商標、または登録商標です。 ※製品の仕様は、改良のため、予告なく変更する場合があります。  
※本文中および図中では、TMマーク、®マークは表記していません。 ※本カタログ中の情報は、カタログ作成時点のものです。